

水質現況

霞ヶ浦・北浦とも7月中旬に

水変りをとおし(図-1・2)透明度
度の上昇し、溶存酸素量も底層で
極度に低下しました。約一週間で
回復しました。8月4日現在では
溶存酸素量も「アオコ」の集積し

図-1 ミ又沖の透明度変化

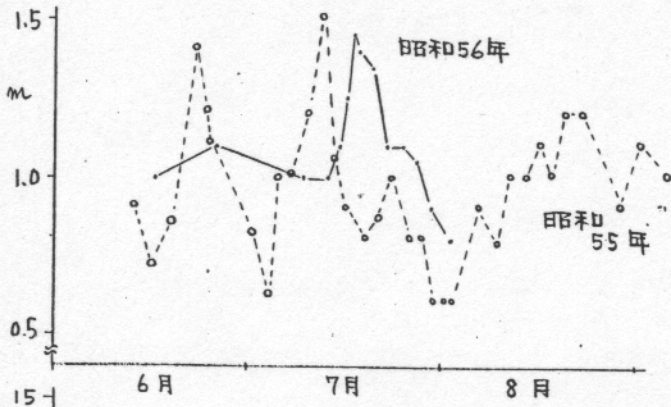
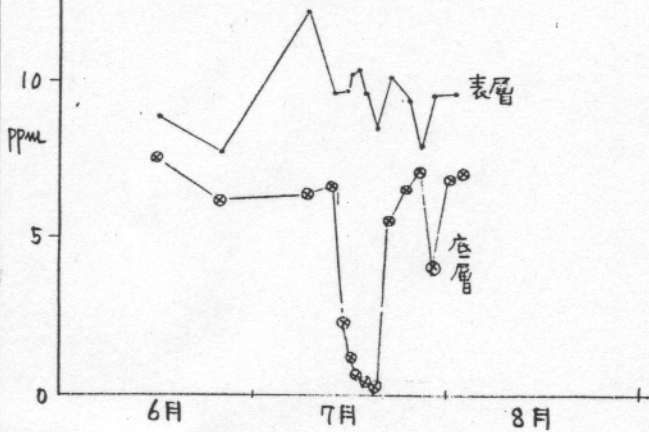


図-2 ミ又沖のDO変化

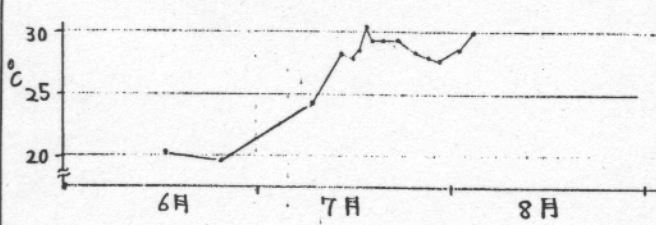


ている土浦入の一部を除き良好
な状態と見えます。

この水変りの程度が比較的軽度
であったためか、コイ斃死事故がほと
んど発生していないようです。

「アオコ」の発生は図-3の水溫変化
のとおり7月中旬から急激に上昇し
場所によっては32℃を越す地点もあり
その発生条件は充分と思われ、
発生量の多い場所は高濃入

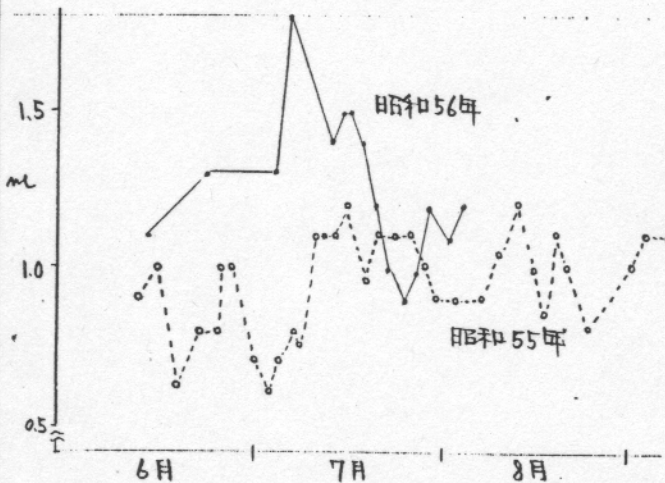
図-3 ミ又沖の水溫変化



と土浦入に限定されています。
特に今年は土浦入の出島村附近
に「アオコ」が発生し、透明度が
20cmにも低下しており、例年と異
なった分布となっています。

8月上旬の水質
最近の霞ヶ浦の水質は局地的
な変化が多く、水質を予測
することは難しく、頭の痛い
ところですが、植物プランクトンの

図-4 北浦(江川)の透明度変化



異常発生は単純に高水溫
と天候では起らず、無酸素水
塊が底層に形成され、底層から
の窒素・燐の溶出が起るミとが
必要条件と考へておりますから
湖心部での「アオコ」の発生は
少ないものと予測しています。
また水の交流の悪い網ヶ浦す
漁場では「アオコ」が集積しや
すいので注意が必要でです。

